

★参加8団体 ★参加者数12名

	団体名	取り組み他
1	白木を守る会	山芋の栽培から保存(非常)食の作成、子供達にエコ教育・啓蒙
2	ふくろい再エネを進める会	地球温暖化防止、脱炭素社会を目指して講演会、学習会開催
3	ろいっこSDGs	CO2削減,生ごみリサイクル教育を子ども,親子対象に取組む
4	浜岡原発を考える袋井の会	原発学習会、講演会開催、被災地に学び脱原発社会を目指す
5	花車の会	交流の場づくり、地域課題の学習と解決への取り組み
6	桜管理ふれあいの会	下新池桜並木の保全、他団体と連携し地域作り交流の場作り
7	NPO法人ふぁみりあネット	女性の視点を大切にまちづくりを考える,多様な分野の取組み
8	NPO法人健康文化クラブ	生涯学習講座開催,ふらっと事務局運営,協働コーディネート

団体活動の情報共有から「つながろう」

■地球温暖化、CO2削減の課題は今できることをみんなでやるのが大切

□若い人、子ども、仕事に追われている世代の人達に伝えたい。

- ◇地域で家族ぐるみのイベント（プロギング等）を通じて交流の中で体験する。
 - ◇「落ち葉銀行」は落ち葉を腐葉土にして循環型農業の推進を図る取り組み、環境教育と交流のまちづくりにつながる。
 - ◇袋井市でも学校と環境団体がつながり街を挙げて脱炭素社会実現を目指したい
 - ◇学校と連携し環境教育を行っているサステナジャパンを参考にする。
 - ◇難しい問題をわかり易く伝えることが求められる。
- 子どもの興味を引くテーマから、地球温暖化の問題へ、今できることを考える。

■災害時に有効な防災訓練について

□地域によって防災訓練の取り組み方に温度差がある

- ◇防災訓練は形式ではなく、この地域で何が起こるのかを知って訓練する。
- ◇袋井市は豆腐の上にある町ということを認識している人がどのくらい居るか。
- ◇子どもから高齢者まで袋井市の成り立ちについて「昔話」を聞くこと。
- ◇今までの災害を教訓に市民一人ひとりの防災意識を高めると共に公共的な対策も地域に対応した取り組みが必要。
- ◇浜岡原発が有事の際は避難のしようがない。原発の是非に遡る課題である。

【ふりかえり】

奇しくも3,11の日に環境防災サミットの開催でした。多様な角度からの意見交換により団体間の連携や交流が生まれました。新しい出会いが団体の活性化につながります。今年度全てのサミットを終えました。活動の基は「人」です。「参加できて良かった」という声を頂き来年度への希望が湧いてきました。

【令和5年度の子定】

4月8日	まちづくり
6月10日	教育・文化
7月8日	福祉
9月9日	スポーツ・健康
10月14日	環境・防災

★参加9団体

★参加者数10名

	団体名	取り組み他
1	健康道場	中高年向けの運動講座、体操と脳トレの組み合わせ
2	スポーツ吹矢	子どもから高齢者、車いすの方も腹式呼吸で健康づくり
3	袋井陸上競技協会	小中高校生対象の記録会、大会の開催、運営
4	袋井山の会	毎月1～2回山行。レベルに合わせて安全な登山、心身の健康を目指す
5	NPO 法人いきいきいわた	気功によって心身の健康をサポート。ひきこもり解消の支援
6	木下 正(袋井市スポーツ推進委員)	学校、地域でスポーツ教室開催、スポーツの普及と健康増進
7	花車の会	交流の場づくり、地域課題の学習、生涯学習講座開催
8	竹野 昇(市議会議員)	社会課題の解決に取り組む
9	NPO 法人健康文化クラブ	生涯学習講座(太極拳・和みヨーガ・体操講座・歌声広場 他)

団体活動の情報共有から「つながろう」

【団体共通の課題と対策】

■会員の高齢化、会員の減少

- ・公共施設などのイベントに団体が積極的に参加をして**活動紹介**をする。
- ・お互いの活動に参加し合い情報提供をする。**他団体と交流**してつながる。

■一般市民は多種多様なスポーツについて知る機会が少ない

- ・**スポーツの紹介イベントの開催**を定期的に行う。
- ・イベントの中で体験することで、各団体のPR、活性化につながる。
- ・現在開催しているイベントについて情報が届かない
- ・ふらっとのコーディネートで**体験会を開催**する方法もある。

■健康意識は高まる半面ひきこもりがちになってしまう

- ・コロナ禍で交流の場の減少もあり外出機会がなくなってしまった。
- ・高齢者のみならず子育て中の女性の運動不足も課題となっている。
- ・身体を動かす事が第一の目的ではあるが、**仲間との交流**が健康には不可欠。
- ・専門的な活動も大切であるが、時々他の種類の活動も取り入れて**気分転換**を図り参加者を**飽きさせない工夫**も必要。
- ・「交流」する楽しさをスポーツ以外でも味わえる仲間づくりが健康に繋がる。

■不登校、いじめは子どものみならず「社会の健康」問題

- ・家庭内で精神的に満たされていない、心にストレスを持つ子が増えている。
- ・5歳までの**愛着形成**(スキンシップ、愛されている実感、体験)が希薄になってきている。親子でストレスを抱え込み家族の心が離れ、地域から孤立して行く。
- ・**地域で子育て**する環境づくりが必要。
- ・ひきこもり、虐待などの悩みを**相談できる場**、団体、地域づくりをふらっととしても目指したい。

★参加6団体

★参加者数8名

	団体名	取り組み
1	社会福祉法人なごみかぜ	障がい者支援（自立、就労、生活、介護）子ども食堂他
2	NPO 法人すずらんの会	障がい者就労支援（共同作業所、市役所カフェ、食品販売）
3	NPO 法人ふぁみりあネット	・ファミサポ運営（育児、介護）・放課後児童クラブ他
4	NPO 法人国際教育文化協会	・ブラジル人学校・放課後児童クラブ・パソコン教室他
5	神長やわらぎの会	高齢者支援（サロン、他団体との交流）介護・福祉の相談
6	NPO 法人健康文化クラブ	・生涯学習講座・うたごえ広場・ふらっと事務局

団体活動の情報と課題の共有・今後の方向

■無償ボランティアと有償ボランティア

- ・基本的には無償（災害時の支援、被災地支援は衣食住は自前で）
- 日常生活の助け合い、サポートの「支える人」を増やしたい→有償
- ・ゆとりある人しかできない活動から「最低賃金以下+&」で支える活動へ
- ・支える人と支えられる人が気持ちよくつながることが大切。

■移動販売車

- ・NPO 法人、企業が少しずつ参入している。今後、増加する高齢者のニーズに対応するには多方面からの支援が必要になる。
- ・公的支援と民間団体のマッチングによる運営も検討されることを期待する。

■送迎サービス

- ・地域でサービスを充実させる事が求められる。
- ・フーちゃん号の活用で助けられている人達が多い。見直しや検討を重ねて運営されているが、今一度ニーズに合わせた再検討の予知があるのではないか。
- ・土日の送迎サービスが一つの課題。
- 福祉施設の送迎車を活用して多様な送迎を行う支援も検討されている。
- ・低所得者であってもサービスが受けられるような仕組み作りが求められる。

■「地域での助け合い」

- ・核家族化、少子化で地域での支え合いが年々薄れて行く傾向にある。
- ・高齢者は昼間も地域で暮らしている人が多いので積極的に助け合い活動に参加して、つながりを保ち広げて行くことが大切ではないか。
- ・自発的に助け合いを行っている人が仲間を作って組織化し活動している地域をモデルにして広がって行くことが望ましいが地域の特色により課題が異なる。
- ・地域外のサービスを必要とする場合もあり、**広域的な視点と地元密着型が必要。**

■ひきこもり解消支援、自立支援

- ・社会福祉団体のボランティアとして、ひきこもりの若者を受け入れ**交流の中で**役割や責任を持って仕事に取り組むことで**人材育成**を図っている。
- ・イベントや地域の催しに障がいを持った人たち等が参加し、サポーターとして活動することで、交流が生まれ**精神的な充実感**が養われる。